

研究計画 (R8年度)

1 研究主題

「学習意欲を高め、読解力の向上を目指す授業づくりと指導法の工夫」

～国語科の説明的な文章を中心とした、読解力を高める授業づくりの実践～

2 主題設定の理由

本校では数年前から、「わかる」「できる」喜びを実感できる学習活動の充実を目指し、まずは基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得できるよう授業改善に取り組んできた。その結果、学習したことをふり返し、次の学習につなげようとする姿勢が育ってきた。また、学んだ内容を活かそうとしたり、自分で解決方法を考えようとしたりする力も、少しずつ身に付いてきている。一方で、基礎学力が十分に定着していない児童もあり、自分の考えをしっかりとったり深めたりする段階には至っていない。特に国語科の「読むこと」「書くこと」の領域に課題が見られ、文章に書かれている内容から必要な情報を正確に捉えられないため、自分の考えがもてず、目的に応じた文章を書くことが難しい状況である。また、これまでの学習内容が定着していない児童は、日々の授業理解が難しく、成功体験が少ないため学習意欲が低いことも課題となっている。そこで、昨年度末に職員間で共有した課題を踏まえ、本年度の研究主題を「学習意欲を高め、読解力の向上を目指す授業づくりと指導法の工夫」とした。昨年度は文学教材を中心に指導を進めてきたが、今年度は説明的な文章を中心に指導を行う。基礎学力を確実に身に付けるため、昨年度に引き続き、系統性を意識した学習指導を行い、基礎基本の反復学習と、インプットした内容を「書き型」に沿って文章化するアウトプット活動を重視していく。学んだことが使えるようになれば、児童は「わかる」「できる」喜びを感じ、主体的に学習に向かう力が育つと考える。読解力の向上を図るため、研究の核を国語科の説明的な文章に限定し、「読むこと」に焦点化する。本校の課題である「読むこと」「書くこと」は、問題文や資料を正確に読み取り、自分の考えや条件に沿って文章を構成する力であり、これは国語科に限らず様々な教科で求められる力である。この力を高めるため、学習指導要領「読むこと」の指導事項のうち、「ア.構造と内容の把握」と「ウ.精査・解釈」の二つに重点を置く。説明的な文章は、問いに対する答えの把握や、文章の三部構成（初め・中・終わり）など、文章から明確に読み取れる内容が多い。文構造や内容を把握しやすいため、必要な情報を見付けやすく、自分の考えももちやすいと考える。こうした「情報を読み取り、考えをもつことができた」という経験は、児童に達成感や自己効力感をもたらし、学習に対する有用感を高める要因となる。学んだことが身に付いたと実感でき、日々の学習を生活に活かせるようになれば、児童にとって学習はより楽しいものになる。そのためには、学ぶ意味や理由を感じられる課題設定や、導入・発問の工夫を行い、新しい学習への不安を取り除きながら、どの子も「わかる」「できる」喜びを感じられる授業づくりが重要である。以上の考えを踏まえ、下記の研究内容にしっかりと取り組んでいきたい。

3 研究内容

●取組の充実

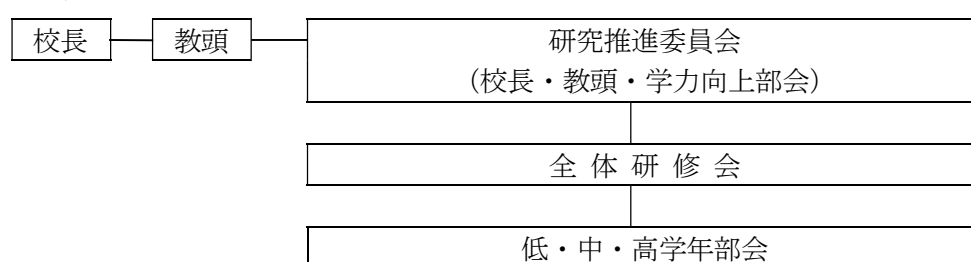
- ①「読むこと」「書くこと」を意識した指導（特に「読むこと」の指導に重点をおく）
- ②学ぶ意味や理由を感じられる課題設定、導入と発問の工夫
- ③新しいことへの不安を取り除き、どの子も安心して活動できる授業
- ④わかる・できる喜びを感じられる授業

●指導の工夫

- ①「読むこと」「書くこと」を意識した指導
 - ・読書や音読等、活字に触れる時間の確保（さわやかタイムの充実）
 - ・文章や資料から読み取ったことをまとめる活動（インプット）
 - ・文章や資料を読んで理解したことに基づき、目的や意図に応じて自分の考えを書く活動
「構成（序論・本論・結論、問いと答え）、型、文のまとめり、推敲、共有」（アウトプット）
 - ・ゴールを明確に示した学習活動
- ②学ぶ意味や理由を感じられる課題設定、導入と発問の工夫
 - ・児童にとって身近に感じられるものからの課題設定
 - ・当該学年までの学習を生かせるような課題設定
 - ・子どもが追究したくなる課題設定（多様な考えを引き出せる課題など）

- ③新しいことへの不安を取り除き、どの子ども安心して活動できる授業
- ・学び合いの素地をつくる（自他を認め合う学級作りや話し合い）
 - ・見通しをもてるような授業の工夫
 - ・考える視点を明確にする発問や指示の工夫
 - ・子ども同士で協力して解決できる課題設定、学習形態の工夫（個人・ペア・グループ学習）
 - ・自力解決時における個別指導の工夫
 - ・ことばを大切にしたい授業づくり（話す・聴く・つなげる・辞書の活用・ことばの仲間分け等）
- ④わかる・できる喜びが感じられる授業
- ・ノート指導の工夫（自分の考えを記述する）
 - ・個に応じた支援の充実
 - ・子ども同士をつなぐ授業、学習形態の工夫（個人・ペア・グループ学習）
 - ・1時間での学びの成果が実感できるたしかめ問題の工夫や個人の記録（授業記録）
 - ・教師が適切な場が出る（しゃべりすぎない・子どもからの発言を待つ→意見をつなげる）
 - ・評価テストや到達度調査、学習アンケートの分析による指導方法の改善

4 研究組織



5 研究方法

(1) 年間計画

月	内 容	月	内 容
4	教育計画の立案 全体研修（研究方法の確認・三部会からの提案） 全国学力学習状況調査の実施（6年）	10	自主勉強に向けて（1年） 県学習到達度調査の実施（4・5年） 公開授業（3年）
5	学力補充開始（3年～6年） 今年度研究方針の協議	11	公開授業（おおぞら・自立活動）
6	研究授業（2年） 学習アンケート調査および分析①	12	研究授業（5年） 県学習到達度調査の分析（4・5年） 学習アンケート調査および分析②
7	公開授業（6年）	1	CRTの実施、公開授業（1年） 公開授業（音楽専科）
8	夏季研修（三部会からの中間報告） 国語研（夏季研修会）に参加予定	2	全体研修（学力分析・研究の成果と課題） CRTの結果分析、評価テスト（5年）
9	研究授業（4年） 公開授業（理科専科）	3	研修（三部会からの報告・成果と課題） 研修のまとめ作成

(2) 研修方法

- ①研究授業や公開授業を実施するとともに、実践交流を行う。
- ②研究会や講習会に参加し、伝達し合う。
- ③学年部会で授業改善に向けて話し合い、教材研究を行う。

(3) その他

- ①部会別研究会と全体研修会を関連づけて行う。
- ②研究の手立てについては、研究推進委員会で企画する。